

一般質問



ちば まさふみ
千葉 正文

○産直の現状と今後の見通しについて
○水道の普及率向上対策について

質問 産直は地域農業を支える大きな役割があり、さらには小規模農家や高齢者の生きがいにもなっています。奥州市内の産直の現状と行政からの産直支援について伺います。

市長 市内の産直施設は30施設、関係する生産者は1600人、販売額は10億4000万円、利用消費者は96万人にも及びます。このように産直は地域農業にとって大きな役割を担っています。産直に対する行政支援は、「胆江地方農業振興協議会」「胆江地方産直施設連絡会」等の組織を通じて統一した要望をいただければ、具体的な対応をしてまいります。

質問 胆沢扇状地は地下水が豊富であり、どこを掘っても飲料水が確保できましたが、現在では地下水脈の変化や水質の悪化等で飲料水が確保できない家庭もあります。希望する全家庭に水道を普及させるべきです。水道の普及状況につ

いて伺います。さらに、水道普及の阻害要因とその対策について伺います。

市長 平成22年3月末現在で水道の普及率は93・3%であり、未給水人口は8561人です。水道普及の阻害要因は自己水源で満足している家庭があることと水道を引き込む費用負担が大きいことです。特にも、配管の工事費を1メートルあたり3万円とした場合、本管からの距離が700メートルの場合には費用負担が2000万円を超えてしまいます。給水希望する全家庭に水道普及させるため、現在、ワーキングチームを立ち上げ、どのような支援、制度ができるか検討しています。



○病院の土日通常診療について
○介護認定前老人の「保育園」について
○地域の高齢者と子どもの居場所について



うちだ かずよし
内田 和良



総合水沢病院

質問 社会状況の変化に伴い土日にしか通院できない患者が多くなります。民間医院の土日の混雑ぶりをみれば、その実情は明らかです。水沢病院はじめ市にとって医師確保が急務の現在、すぐの対応が無理とは重々承知しますが、状況が好転した将来、病院連携等での休診日変更の可能性について伺います。

市長 医師不足からの水沢病院の午後休診等厳しい実情の中、状況を整えながら前向きに考えてまいります。

質問 介護認定直前の高齢者と暮らす、勤めに出る家族にとっては毎日が気がかりなものです。保育園のように老人を朝送り、夕方迎えに行く施設があれば助かる、と望まれています。現状と今後を伺います。

市長 介護予防事業の効果として「特定高齢者」は減少しています。お尋ねの毎日預かりの施設はありませんが、今後もさまざまな介護予防事業を充実展開してまいります。

※特定高齢者：福祉用語。介護認定前の虚弱な高齢者。

質問 地域の集会所等に近所の老人が三々五々集まって、午前中は囲碁・将棋に四方山話。午後からは放課後の子どもたちが来て、昔の遊びを教えたり宿題の手伝いをしたり。子どもは老人と接したほうが優しい子に育つともいいます。希望される町内会に、高齢者と子どもの居場所を行政と地域の協力でつくれたら素晴らしいと考えます。一般的地方行政システムでは夢のような話ですが、市長の考